



ソフトバンクグループ株式会社

2022年3月期 第2四半期 決算説明会

2021年度 11月8日

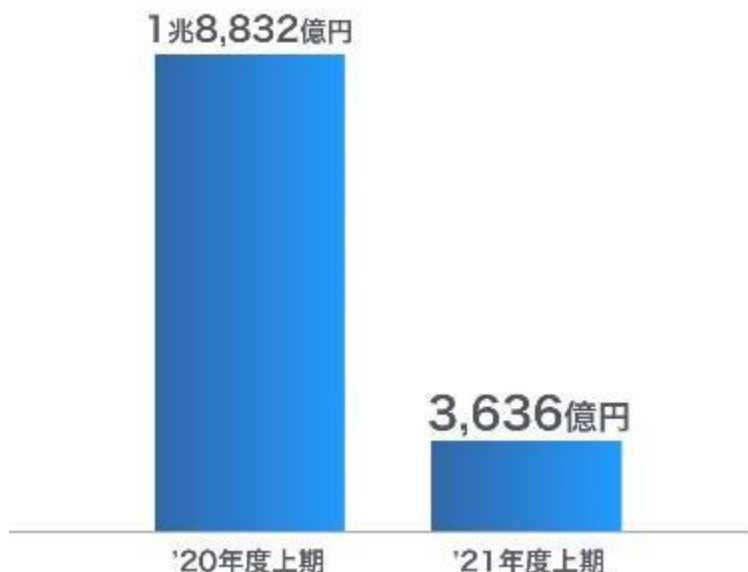
登壇

孫：いや、もう人生って面白いですね。いろいろなドラマがあります。ちょうど半年前、今年の3月末の決算。その発表は5月でしたが、それから半年たちました。あのとき、40年前に、ソフトバンクグループは実は福岡の小さな町、雑餉隈（ざっしょのくま）というところで私とアルバイト二人の社員で始まったというようなことを振り返りながら懐かしく話をしました。踏切の向こうには夢があるということで、それからソフトバンクグループが大いに成長したのだというような話をしました。今日はその続編です。では、早速開始します。



続編、どうなったかということです。真冬の嵐のど真ん中です。踏切の向こうには夢があるということで、大変大きく成長しました。日本の経済史上最大の5兆円の純利益を出したということで、大いに胸を張りながら40年前を振り返ったのですが、それから半年経ってソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）がどうなったかと言うと、また嵐の中に突入ということです。大嵐です。冬の木枯らしです。

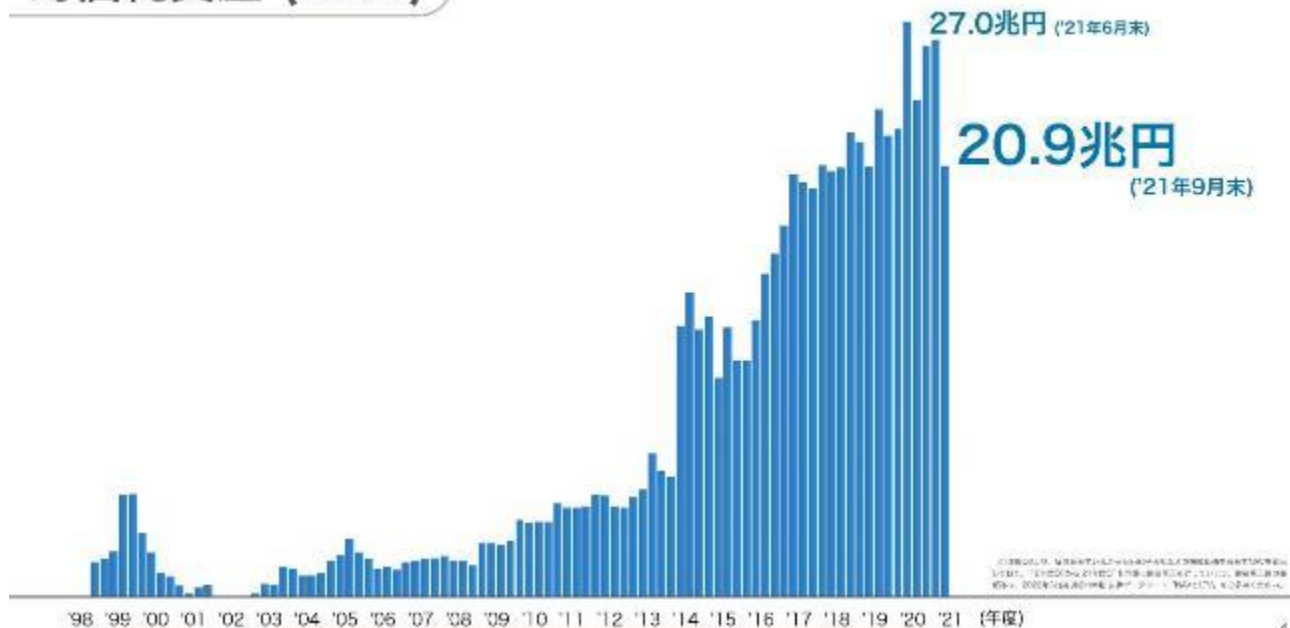
当期純利益



当期純利益：親会社の所有者に帰属する純利益 3

決算発表の内容ですが、去年は上期だけで1.8兆円の純利益。今年は大幅減益です。1.5兆円ぐらいの減益で、3,600億円の純利益。赤字じゃないからまあいいじゃないか、とちょっとぐらい慰めたいところですが、実質は大赤字です。

時価純資産 (NAV)



2021年9月末、10月1日現在のNAVは20.9兆円です。NAVは時価総額と発行済み株式数を除いた純資産の総額を指します。2021年9月末のNAVは20.9兆円です。

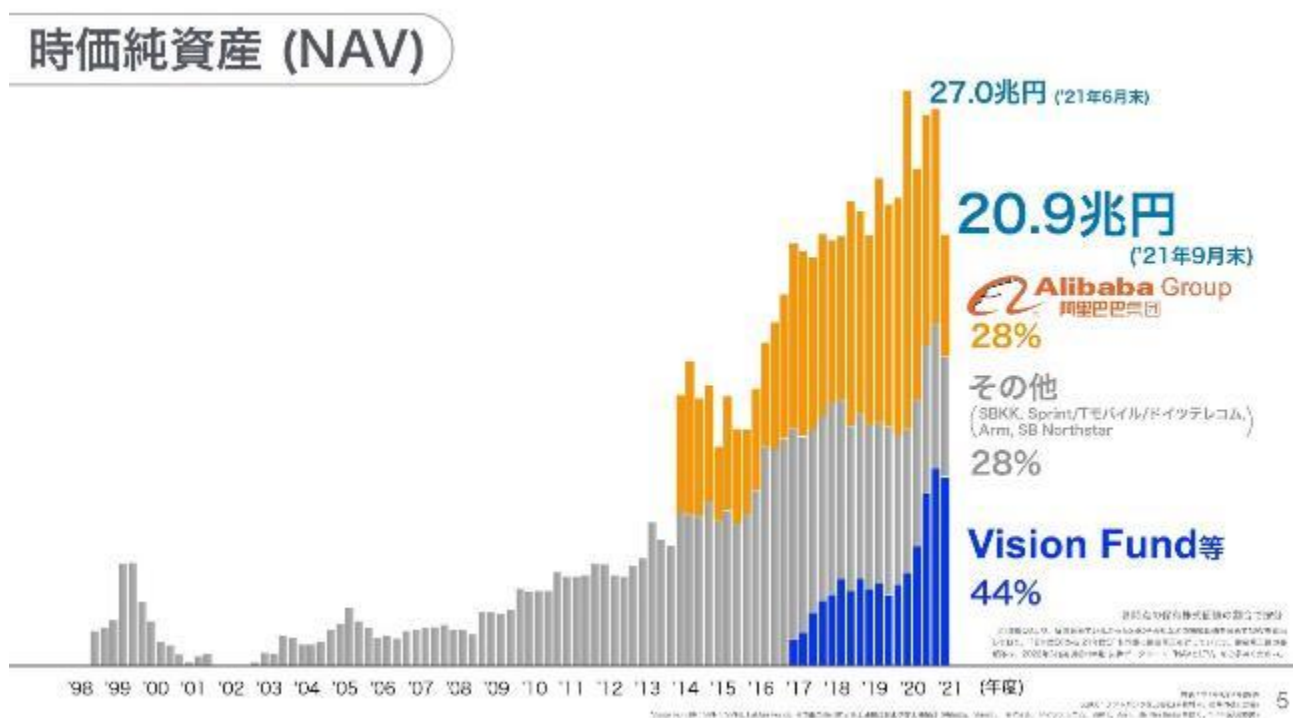
4

どのくらい赤字かと言うと、実質6兆円の赤字です。6兆円の赤字とはどういうことかと言うと、僕がかねてから何回も、会計上の利益より大切なのはNAVであると申してきました。その会計上

の純利益よりも、わが社にとってより大事な指標の NAV（時価純資産）、この投資家としての SBG にとって最も大切な指標である時価純資産が 6 兆円も減ってしまったと、たった 3 カ月です。

3 カ月で 6 兆円も減ったと、これはもう一大事だということとして、実質 6 兆円の大赤字、大嵐の冬の木枯らしの中に突入しているということです。ですから、これは SBG の株主の皆さんにとっては、一大事だということになるわけです。一大事ではありますが、私もそこまで悲観しているわけではなくて、要は実は悪い話ばかりじゃないということ、このあと、続編として話をしたいと思います。

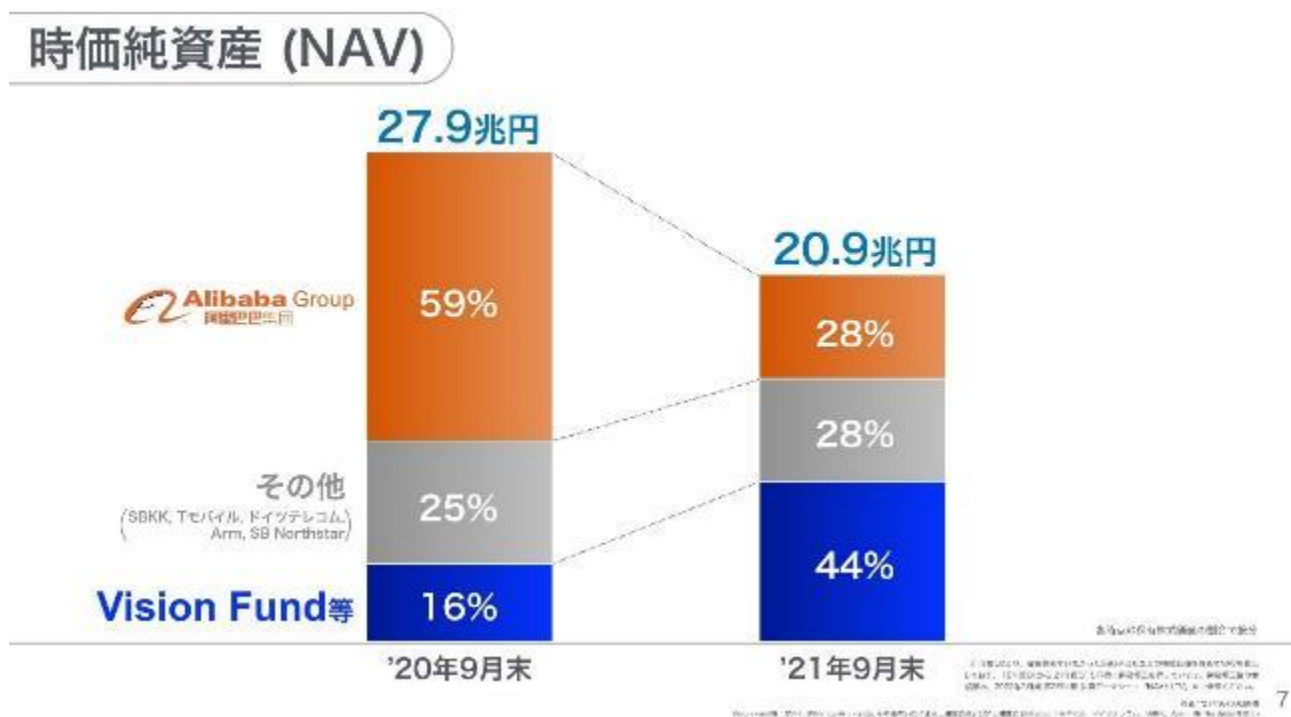
でも、結論は、言い訳抜きでわれわれの NAV、時価純資産が 6 兆減っているという事実を、まず最初に皆さまにご報告をしたいと思います。その内訳を今から説明します。



内訳、一言で言うとアリババですね。われわれの時価純資産、NAV の中で一番大きいものは今までアリババだったわけですね。このアリババがどんと価値を減らしたと。

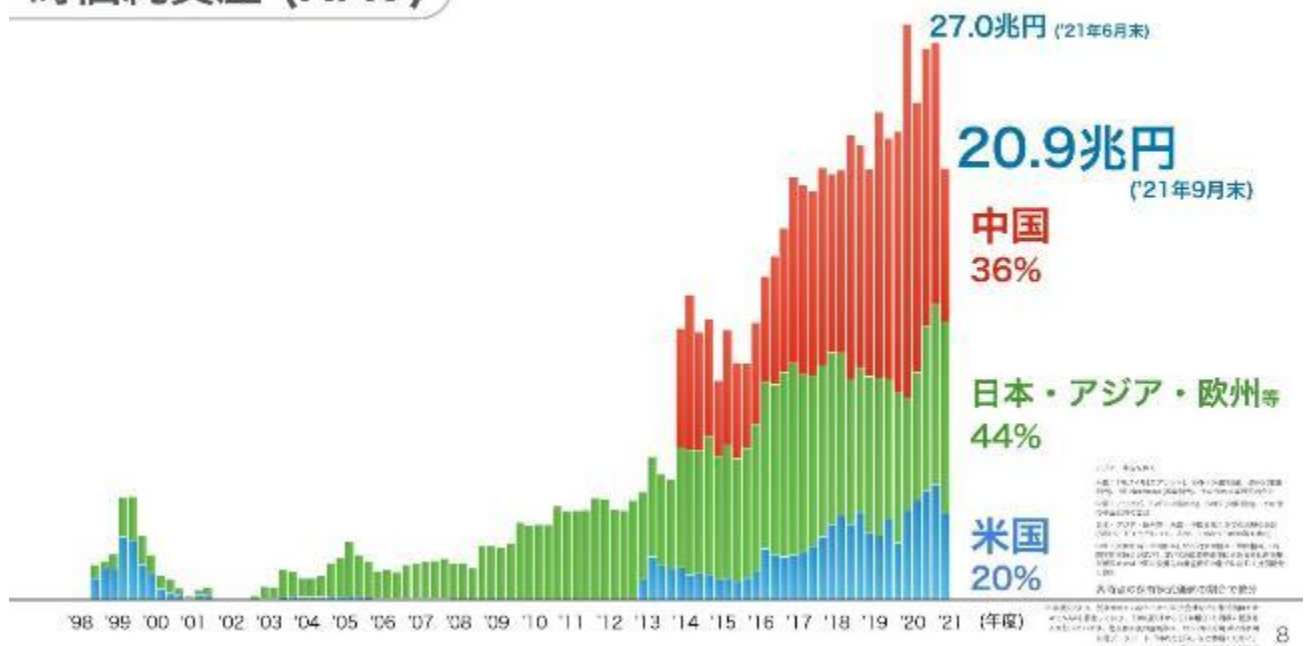
アリババは上場会社ですから、毎日株価は公表されていますので、すでに多くの方は SBG の NAV がアリババの株価の下落で、この 3 カ月で大いに減っているのではないかとはいはなんとなくイメージしていたと思いますが、具体的にグラフで見るとこういう形で、今までオレンジの部分、アリババの部分が 6 割近く占めていた時期もあったのですが、それが SBG の NAV に占める割合としては 28%まで減りました。

一方、減ったばかりではいけませんので、むしろわれわれの本業、一番の中心のところはこれからソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下「SVF」）になるということをおねてより申し上げていましたが、そのSVFが、NAV全体に占める比率としては44%ということで、着実にこのグラフでいうブルーのところ伸びてきているというのがお分かりいただけると思います。



去年の上期と今年の上期を比較するとどうなるかと言うと、ちょうど1年前の9月末、27.9兆円の保有株式に対してアリババが約60%ありました。それが今、20.9兆円に減っていますが、59%あったアリババの部分が28%に減って、16%とまだ小さい部分であったSVFのところ、この1年で、たった1年で、様変わりして44%まで増えていると。SBGのNAVに占めるところの一番大きな部分は、もうすでにSVFになったということです。

時価純資産 (NAV)



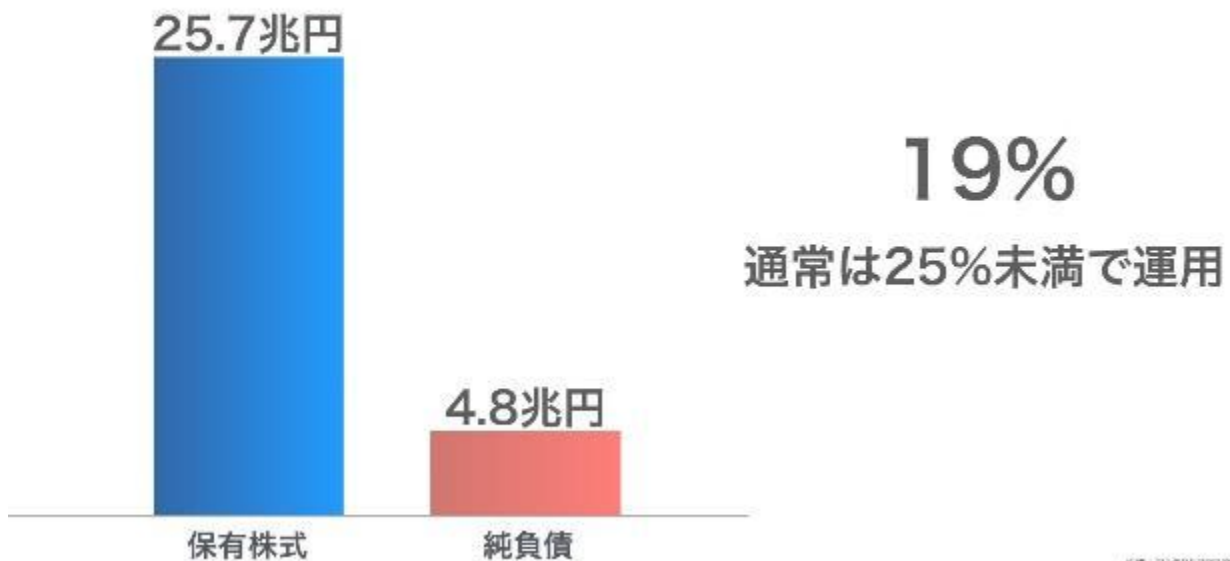
われわれの NAV の国別の内訳を見ていただきますと、米国が着実に伸びてきています。ブルーのところですね。中国が赤い部分。中国のうちの大半はアリババですから、アリババの株価の下落、そして SVF で持っている中国銘柄の影響もあります。

例えば、滴滴。鳴り物入りで上場したのですが、上場後、アリババ同様に、中国のハイテク株は今、受難の時期ということで、中国におけるハイテク企業はことごとく株価が暴落していますが、アリババも、そして滴滴も、そのほか、われわれが保有している中国銘柄がこの3カ月間で大いにその価値を減らしたということです。

一方、ブルーのところと、それから緑のところですね。この二つの部分は順調に伸びてきていることがお分かりいただけると思います。つまり、米国およびその他は順調に伸びているということです。

この NAV がわれわれ SBG の一番重要な指標であるということを申ししていますが、もう一つだけ重要な指標があります。もう一つは LTV です。

LTV (純負債/保有株式)

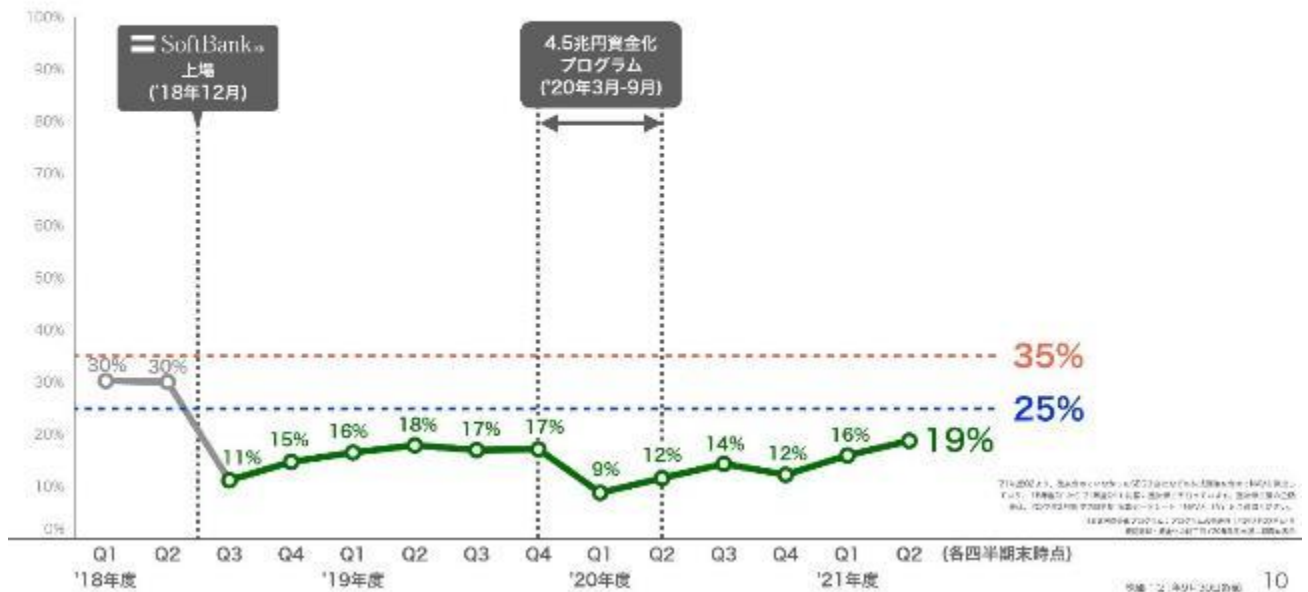


出典：2019年9月30日現在
LTV = 純負債 / (純負債 + 保有株式) × 100

この二つの両輪で、SBGの経営のかじ取りを行っているのご理解いただきたいのですが、LTVは、われわれが保有している株式に対する、われわれの純有利子負債の比率です。いまだにSBGは借入、借金大魔王だなんていう方がいますが、これはもうとんでもない誤解でして、それは昔のわれわれの姿ということです。

以前は実際にLTVが65%ぐらいだった時期も確かあったと思います。そのころは確かに、スプリントだとか、その前、ボーダフォン・ジャパンを買収した直後とかは、確か65%ぐらいあったような記憶がありますが、その頃は確かに借金型の会社でした。非常に危険な会社でしたが、現時点においては、保有している株式資産に対して19%ですから、これは十分安心していいレベルだと私は認識しています。

LTV (純負債/保有株式)



このLTVが、この3~4年間どういうふうに推移してきたかというのが、こちらのグラフです。こちらの左端のところは、3年ぐらい前ですね。3年ぐらい前というのは、ソフトバンク株式会社（以下「SBKK」）が完全にSBGの一部でしたが2018年12月に、上場しました。

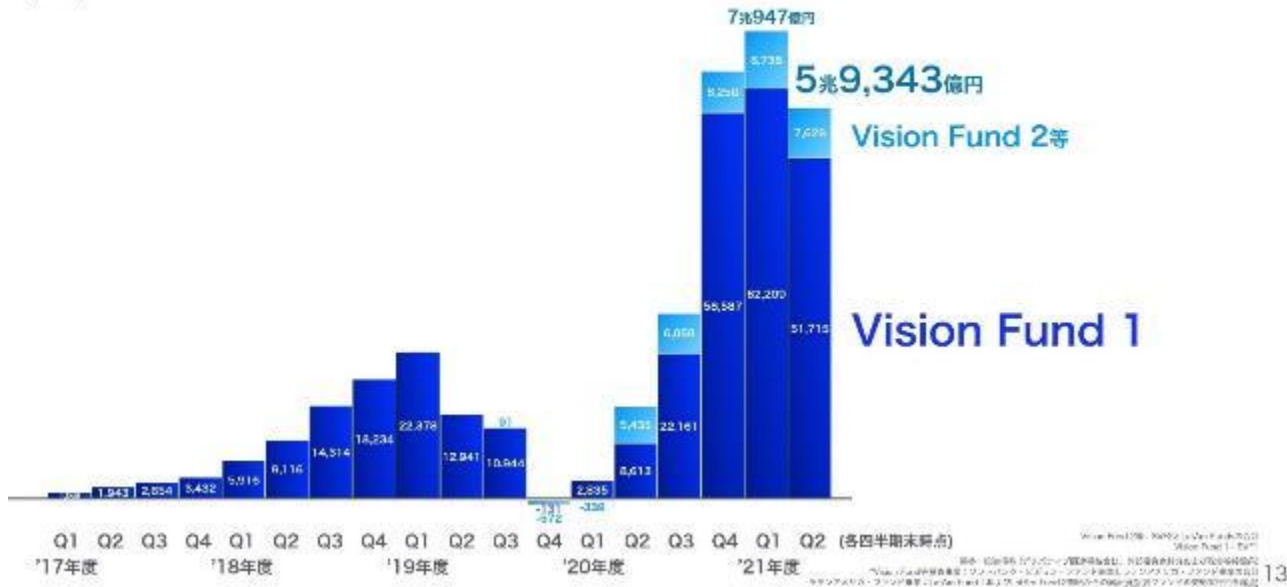
SBKKが分離上場して、その時点からわれわれのLTVは20%を下回るレベルでずっと推移していると。これを見ながら、われわれとしては安全運転を心がけてやっているということです。

かねてより、われわれの内部規律としては、ブルーのところの点線、25%の下で運転していくと。少なくとも異常時においてでも35%を超えないようにやっていきたいと、これがわれわれの内部規律、財務規律です。この財務における安全運転の目安、25%あるいは35%を下回るレベルでちゃんと運転しているということをあらためてご報告します。

25%を超えたら絶対駄目ということではなくて、保有している株式が半額になっても、全然持ちこたえられる範囲ということですが、このような形でLTVは推移しています。

Vision Fund等 投資事業 損益 (累計)

(億円)



利益の中に占める内訳ですが、SVF1の部分が大半です。SVF2、ラテンアメリカ・ファンド（以下「LatAm ファンド」）などについては薄いブルーのところですから、まだまだ、スタートしたばかりで、より早く始めたSVF1からの利益が、だいたい3~4年かかって出てきたのです。3~4年かかって上場していきますから。

そういうことでは、先行して始めたSVF1は、1年、2年ぐらい前にはいろいろありました。ウィークショックだとか、ウーバーも上場したはいいが価値をすぐに下げてしまったとか、いろいろ苦しい時期がありました。

さらに、コロナの谷の追い打ちで非常に苦しい時期があったわけですが、そのあと、コロナの谷を飛び越えて、SVF1は大いに価値、利益を増やしていったわけですが、SVF2、そしてLatAm ファンドなどは始まったばかりですから、これから3~4年かけて続々と上場していくと思っています。

Vision Fund等投資事業[※] 損益 (累計)

(億円)



国別で見ますと、米国がブルーのところですね。先ほどの NAV の中でも米国が順調に伸びているということを申しましたが、SVF の中でも米国のところは1回、コロナの谷、ウィークの谷がありました。そのウィークも、上場を無事果たし、われわれの投資した価値よりはまだ少ないのですが、順調に回復してきている。米国はドアダッシュの素晴らしい IPO などを含めて、非常に順調だと。

グリーンのところは先ほど言いました韓国のクーポン、その他ですね。これが大いに利益を稼いだので、グリーンのところも順調に利益を増やしていると。

唯一減ったのは、チャイナで赤い部分ですね。今まで稼いだ利益をこの3カ月間でほぼ全て吐き出したというのが、この3カ月の動きでした。つまり、この3カ月間は NAV に占める一番大きな部分のアリババの大幅な下落と、SVF の中国銘柄の下落。この二つがわれわれの NAV の価値、あるいは純利益を下げた一番の要因であったということです。

Vision Fund等 投資先 時価

(21年9月末時点・売却済除く)



幅広い地域へ 資本を提供



15

では、SVFは、どの国にどのくらい累計で投資をしているのかと、その時価がどうかと言うと、米国、そして中国の二つが二大地域なのですが、米国が一番大きい。その他、アジア、ヨーロッパ、南米と全部まとめていますので、緑が一番大きくなっていますが、国別で言えば、米国がやはり一番大きい部分です。ほかの部分、緑の部分が、われわれの得意な部分として、どんどん価値を増やしてきているということです。

ここが米国のシリコンバレー系のベンチャーキャピタルとはちょっと違って、われわれは米国でも成功していますが、それ以外の地域でも結構成功しているということです。

Vision Fund等 投資先 時価

(21年9月末時点・売却済除く)



幅広い分野へ 資本を提供



本投資先は、2021年9月末時点での時価総額を基に、各分野への投資割合を算出しています。この割合は、各分野への投資額が総投資額に占める割合を示しています。また、この割合は、各分野への投資額が総投資額に占める割合を示しています。また、この割合は、各分野への投資額が総投資額に占める割合を示しています。

16

それから、分野別ですね。どういう分野に累計で投資をしているかというと、コンシューマサービスだとか、ロジスティクスですね、ものを運んだりするビジネス、そしてモビリティなどがあります。コンシューマサービスの中にクーポンが含まれています。ロジスティクスの中にドアダッシュが含まれています。モビリティのところにはウーバーだとかその他が含まれているということでして、フィンテックなんかも最近、急激に存在感を増してきているということです。

Vision Fund 2 投資プロセス



17

SVF、私は非常に手応えを感じており、SBGの中核となったということをさきほど申しましたが、中には、私、孫正義個人がワンマンプレイで、何でもやっているのではないかと報道されたり、思われたりしている部分があるかもしれません。しかし、実際はそうではなくて、約3,000社ほどのパイプライン、われわれの投資の候補先を常に見ています。

その中から全世界に拠点を設けているわれわれの投資チームが、初期のスクリーニングを行い、デューデリジェンスを行い、レビューして、最終的に投資委員会にかける。この投資委員会のメンバーの中にはもちろん、私も入っていますが、ちゃんと厳格なプロセスを経て、組織として、数百人の規模で投資をそれぞれ分野別、地域別に分けて、専門チームがそれぞれディールを追いかけているということです。



SVF1とSVF2の違いを申し上げると、SVF2はSVF1のときよりは、より組織立った仕組みができたという状況です。もう一つは、1件当たりの投資額がSVF1のときは大振りが多かったです。一発ホームランを狙ってぶんぶん振り回すということで、1件当たりの投資が約1,000億円でした。SVF2においては、1件当たりの投資額は約200億円。ですから、1社当たりの投資が約5分の1のチケットサイズになっているということです。

ですから、大振りするよりは、着実にヒットを出したいと。数を多くヒットを出したい。累積打率と言いますか、累積して、しっかりとトータルの利益を出していきたいということで、1件当たりの投資は大振りするよりも、より細かく確実に分散して行うという状況です。



もう一つの特徴は、1社当たりに対するわれわれの持株比率。SVF1のときは二十数パーセントでしたが、SVF2では十数パーセントということで、1社におけるわれわれの持株比率をより細やかにしているということです。その代わりに、ディールの件数はSVF1よりも大幅に増えています。ですから、1チケットサイズを減らす一方、打席に立つ回数を大幅に増やして、トータルで見ると年間の投資金額というのはSVF1のときと遜色ない、むしろそれを上回るぐらいのペースで推移しています。

われわれからすると、20%、30%の株式を取りにいこうとすると、どうしても値段が高くなっちゃうのです。相手の株主からすると、そんなに希薄化を今の段階でしたくない。だから、そんなにあなたが30%、25%欲しいなら、値が高くなりますよ、という交渉が多かったです。それが、やや小口で、少し早めの段階で入るから、1チケットサイズが小さくなるし、入ったときにがばっと取りに行かないということで、これも細やかになります。

一方、SVF2は、株主、投資家はわれわれ、SBG100%ですので、外部投資家がいないと。SVF1のときは外部投資家が約50%いました。ですから、22%と言ってもSBGの持分は実質11%だったわけです。ですから、SBGの1社当たりの純粋な持分比率という意味では、約11%だったのが15%にむしろ増えている。このほうが入口も入りやすいし、出口も出やすいということで、より細やかなオペレーションができるようになったということです。

先ほど、LTV を 25% 超えないようにやっていきたいと言いましたが、その財源はどうするのだと言うと、われわれはこの上期で 3.2 兆円を投資したのですが、その財源はどこから来たのかと言うと、そのうちの約 90%、3 兆円は SVF で上場した株式、あるいはわれわれが SBG として手持ちのいろいろな株式。これの売却あるいは、株式を担保として調達した資金です。

ですから、その外からのお金、新たな社債をどんどん増やしてとか、借入をどんどん増やすということではなく、自分の手持ちの保有株式から資金化することで、資金が回るようになってきたと。エコシステムとして回るようになってきたということです。

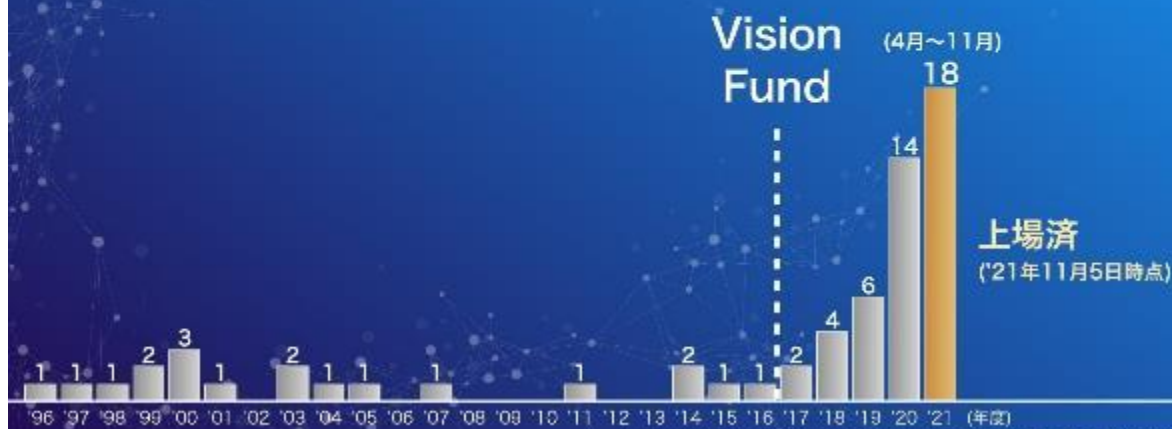


ということで、冒頭に半年前の話、少し有頂天で 40 年前から振り返って、史上最大の利益を出したなんていうことを申しましたが、半年たった今は嵐の真っ最中。この 3 カ月間で、特に中国銘柄を中心にわれわれの NAV が大幅に下落しているということを申しました。でも、私には見えません。真ん中にちょこっとありますね。見えますか。この真ん中に青い芽が見えていると。私にはそういうふうに思えてなりません。

われわれにとってこの嵐の中のこの青い芽。この嵐の中の青い芽をしっかりと育てていきたいと、芽を出していきたいと考えています。

IPO 新規上場 / 売却数

(社)



そのまず一つ目ですが、1~2年前から、SBGというのは、金の卵を産むガチョウであるという話をしてきました。金の卵は、ガチョウから出てきて、チャイコフスキーみたいに踊りながら、卵がぽっぽこぽっぽこ生まれてくるようなプレゼンもしたと思います。あのときにこれからSVFで生まれてくる卵の数が増えてくるというようなことを申しました。点線が真ん中の右側（2017年度）にあります。あそこからSVFが始まったわけですね。

それまでは20年間、年間1社か2社、上場あるいは売却が発生しているということでしたが、SVFを開始して以来、2社、4社、6社、14社と倍々で伸びてきました。今期は4月~11月だけですでに18社です。ですから、下期も足すと、去年の倍増というのは十分いけると私は思います。



ちなみに、すでに上場申請済みのものが8社、そしてSPAC経由の上場というのも5社。合計13社、すでに見えていると。もうIPOの上場の手続きに入っているということですから、着実に去年の14社、金の卵が14個生まれたというのに比べて、倍ぐらいの31社、30件ぐらいの卵は生まれてきている。卵の中にはですね、生まれてすぐ死産みたいなものの中にはあるわけですね。でも、中にはでかく金ぴかに光ったような卵もどんと、先ほど申しましたクーポンだとか、ドアダッシュのようなものが、これからもこの中に比率として含まれてくると思いますね。



もはや SBG の SVF というのは 20~30 社に投資しているという状況ではありません。ついに 360 社になりました。368 社。

先ほど言いました。われわれの SVF の利益の累積として 9 割方は SVF1 から来たものだと。SVF1 もやはり 3~4 年かかっているわけです。SVF2 と LatAm ファンド。いくら 1 社当たりの金額が小さくなったとはいえ、この 1 年ちょっとでもうすでに社数が 3 倍以上、いや 4 倍ぐらいに増えている。ですから、1 件当たりの投資金額が 5 分の 1 であったとしても、SVF1 の累積に匹敵するぐらいの、新たな白い卵がおなかの中に 4 倍近い形で累計で増える。つまり、3 倍分の新たな白い卵が、お腹にたった 1 年ちょっとで入っているということです。

ですから、私は着実に新たな芽が嵐の中でも、金の玉をどんどん生み続けるという仕組み、エコシステムが、しかも、自分たちの手持ちの資金、手持ちのアセットで回っていくエコシステムができてきたと、そういう内に秘めた自信があるということです。

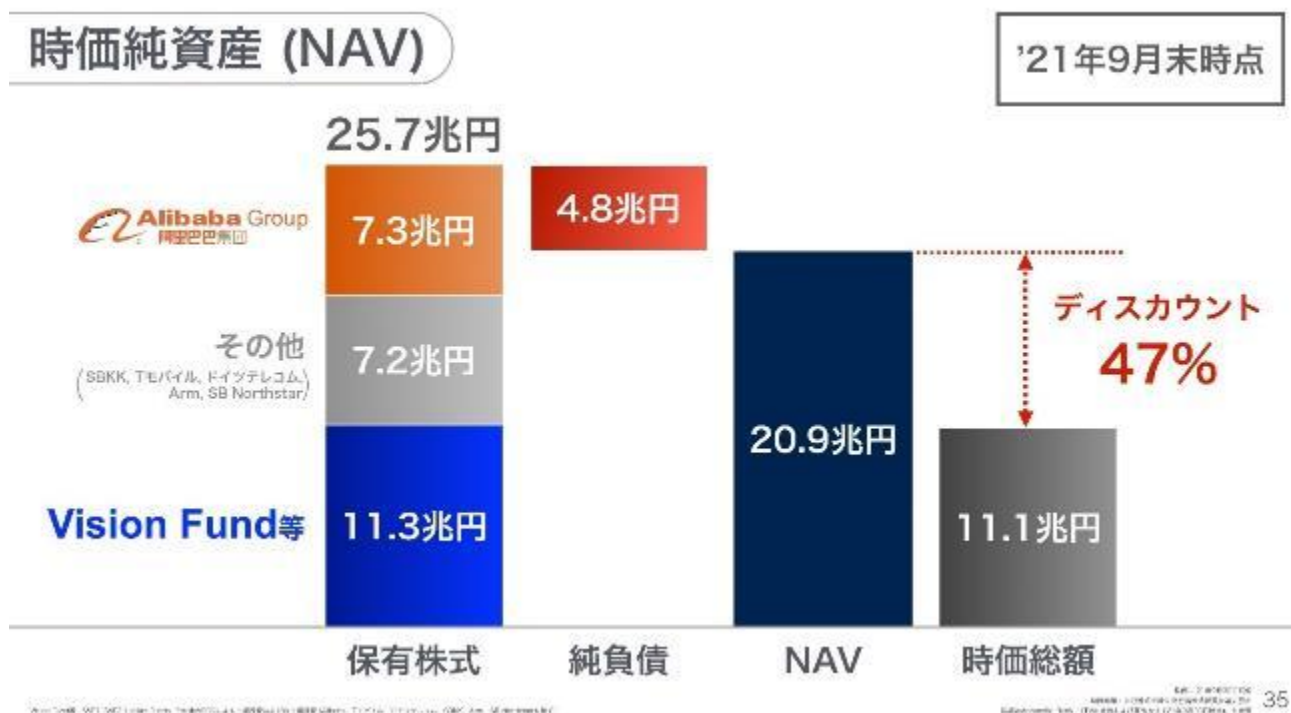
新たな芽

The logo for ARM, consisting of the lowercase letters 'arm' in a bold, blue, sans-serif font.The logo for PayPay, featuring a red square with a white stylized 'P' inside, followed by the text 'PayPay' in a bold, black, sans-serif font.

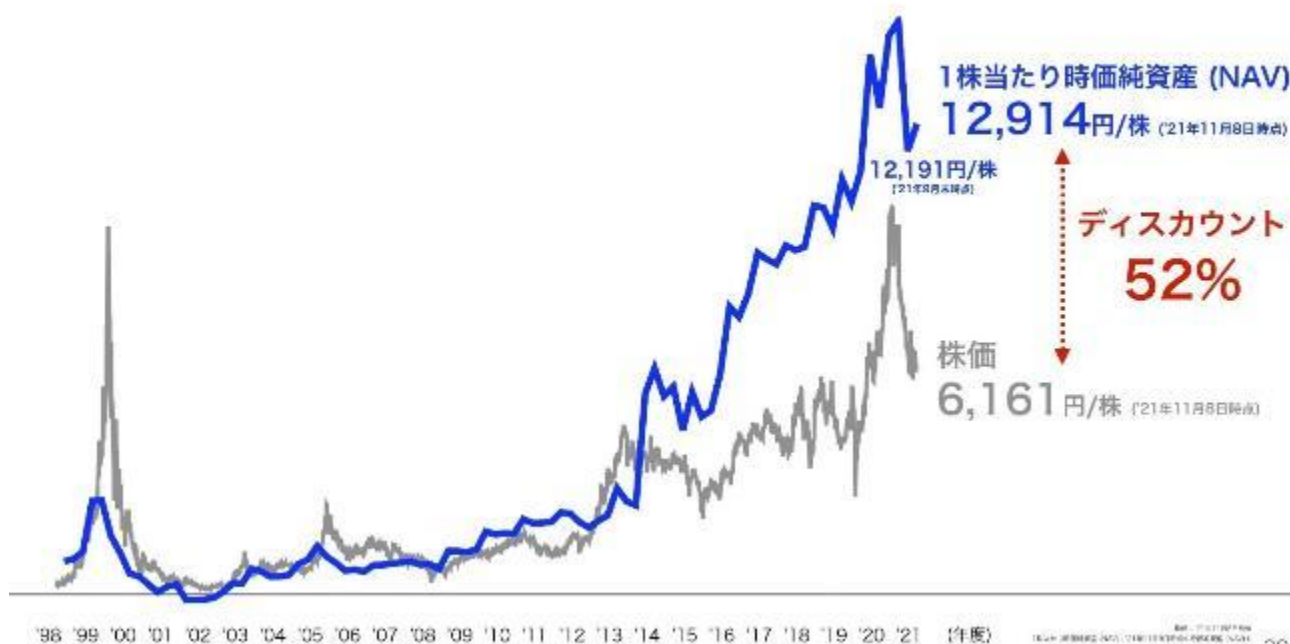
30

さらに新たな芽があります。どんな芽かと言うと、アームとペイペイです。アームはご存知のように 3 兆円ぐらいで買いました。エヌビディアとは 4 兆円の評価で売却合意をしました。その 4 兆円の対価ですが、3 分の 1 が現金で 3 分の 2 がエヌビディアの株という形での契約でした。それから 1 年たって、エヌビディアの株価は 2 倍以上になりました。従って、もしエヌビディアのディールがクローズ、正式に受理されれば、3 兆円だったものが 4 兆円で合意し、今日現在のエヌビディアの株価で言うと約 9 兆円になっています。

つまり、1年前のエヌビディアのディールは4兆円ディールではなくて、今日現在の株価で言うと9兆円のディールになっている。約5兆円、含み益が今、沸々と育ってきているということです。もちろん、売却は各国政府の許認可が必要です。もう一つはペイペイ。こちら私としては大いにいけると思っています。



時価純資産ということで、NAVの話がいろいろしました。新たな芽の話もしました。時価純資産、NAVについても一度、言います。われわれは、約25兆円の株式を持っている。アリババ、SVF、その他。それに対して、純有利子負債は4.8兆円。ですから、われわれのNAV、時価純資産は20.9兆円ということになりますが、われわれの時価総額はどうかと言うと、9月末では11.1兆円です。保有している価値、時価純資産に対して、5割近いディスカウントが入っていると。



この時価純資産がどういう形で推移してきたかと言うと、過去 20 年ぐらい見ていただきますと、山あり谷ありですが、特に 2000 年ぐらい以降は一貫しておおむね上がってきているということがお分かりいただけると思います。

9 月末では 20.9 兆円と言いましたが、それから 1 カ月たって、1 兆円ぐらいすでに復活してきている。私はもうちょっと復活するのではないかと心の中で信じていますが、そうは言ってもとにかく、われわれの時価総額は 9 月末よりさらに下がっているということで、ディスカウント幅は 47%ではなくて、52%まで、むしろディスカウント幅が増えているということです。

1 株当たり直すと 1 万 2,900 円の NAV に対して、われわれの株価は、今日の終値で 6,160 円ということですから、52%ディスカウント。でも、本当はこれに、先ほど言ったエヌビディアの約 5 兆円分近い含み益がこれに加わると、さらに 2,500 円ぐらいブルーのところは上に行きます。

今日現在はまだ許認可が下りたわけではないので、このグラフには書いていませんが、これよりもさらに 2,500 円ぐらい NAV は、本当は高いかもしれない。さらにペイペイもこれから大いに伸びるかもしれないということで考えると、ディスカウントは僕の内心、本当は 60%ぐらいあるのではないかという、そういう気持ちです。



ですから、これは嵐の中、大嵐の中ですが、青い芽が見えていると。緑の芽も見えていると。もしかしたら、この緑の芽はよく見ると1個じゃなくて、3個ぐらいあるのではないかというふうに、私は内心思っているということです。

自己株式の取得

1兆円

取得期間：1年間（'21年11月9日から'22年11月8日まで）

財務方針・投資機会・NAVディスカウント等を考慮のうえ実施
(1年以内に取得額が1兆円に達しない可能性あり)

詳細は、'21年11月8日付プレスリリース「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ」を参照 42

ということで、株主の皆さんに発表したいと思います。私もSBGの大株主の一人ですが、このような状況を鑑みて、これだけ1株当たり、時価純資産に対して5割も6割もディスカウントが入

っているかもしれないという状況であれば、株主として、この状況を逆手に取って、嬉しいニュースにするにはどうしたらいいかと言うと、自己株式の取得です。

僕も株主ですから、先ほど冒頭から嵐だという話をしているわけですが、でも内心、嬉しくてしょうがない。なぜならば、嵐の中で実際の実力よりも大幅に株価が下がっている、ディスカウントが大幅に増えているわけですから、今こそチャンスであるということで、取締役会で喧々諤々議論をしまして、1兆円の自己株式の取得を今日、先ほど決議しました。嬉しくてしょうがないですね。私、株主ですから。この決議を待っていたということです。

この1兆円の自己株式の取得ですが、ルール上、1年間で最大どのぐらい買えるのかという枠の決議を取締役会で行っています。この1兆円の枠の決議に対して、1年以内に取得を完了させたいとは思っていますが、先ほど言いましたように、NAVのディスカウントも大事だけど、安全運転のためのLTVもちゃんと勘案しなければいけない。

SVF2で投資機会が続々とありますから、投資機会も失いたくないということで、この三つの指標をよく見ながら、もしかしたらこの1年以内に1兆円の自己株式の取得が完了しない場合があり得る。そういう場合にはしょうがないと。安全運転もちゃんとやらなければいけないので、今まで言ったことはほとんど実行してきていますが、今回の1兆円の自社株買いもぜひ1年以内に実行したいと思いますが、場合によっては1年以内に完了しないことがあり得ると。

もし、LTVなどの安全運転の観点からこれを1年で完了しなかったときには、1年を超えてでも、私は、経営者の一人として、ぜひ1年で完了しなくても、ちょっと延長戦に入ってでも、また役員会でしっかりと議論しながら、ぜひこの1兆円は、遅かれ早かれ実施したい。こういう決意でいるということを皆さまにご報告します。

ごちゃごちゃ言いましたが、とにかく1兆円の自己株式取得はやる、やりたいということです。1年をちょっと超える場合があるから、もし1年以内に完了しなかったら、そのとき、嘘つきとは言わないで欲しいと。とにかくやるつもりでいるということで、発表したいと思います。

いつもは、われわれどんな会社に新たに投資しているかという事例をたくさん説明したりもしていますが、今日はもうシンプルにわれわれの状況と自己株式取得。このことに集中して話をしました。

以上が私の今日のプレゼンです。ありがとうございました。

IMPORTANT INFORMATION

Disclaimers

This presentation provides relevant information about SoftBank Group Corp. (“SBG”) and its subsidiaries (together with SBG, the “Company”) and its affiliates (together with the Company, the “Group”) and does not constitute or form any solicitation of investment including any offer to buy or subscribe for any securities in any jurisdiction.

This presentation contains forward-looking statements, beliefs or opinions regarding the Group, such as statements about the Group’s future business, future position and results of operations, including estimates, forecasts, targets and plans for the Group. Without limitation, forward-looking statements often include the words such as “targets”, “plans”, “believes”, “hopes”, “continues”, “expects”, “aims”, “intends”, “will”, “may”, “should”, “would”, “could”, “anticipates”, “estimates”, “projects” or words or terms of similar substance or the negative thereof. Any forward-looking statements in this presentation are based on the current assumptions and beliefs of the Group in light of the information currently available to it as of the date hereof. Such forward-looking statements do not represent any guarantee by any member of the Group or its management of future performance and involve known and unknown risks, uncertainties and other factors, including but not limited to: the success of the Group’s business model; the Group’s ability to procure funding and the effect of its funding arrangements; key person risks relating to the management team of SBG; risks relating to and affecting the Group’s investment activities; risks relating to SB Fund (defined as below), its investments, investors and investees; risks relating to SoftBank Corp. and the success of its business; risks relating to law, regulation and regulatory regimes; risks relating to intellectual property; litigation; and other factors, any of which may cause the Group’s actual results, performance, achievements or financial position to be materially different from any future results, performance, achievements or financial position expressed or implied by such forward-looking statements. For more information on these and other factors which may affect the Group’s results, performance, achievements, or financial position, see “Risk Factors” on SBG’s website at https://group.softbank/en/ir/investors/management_policy/risk_factor. None of the Group nor its management gives any assurances that the expectations expressed in these forward-looking statements will turn out to be correct, and actual results, performance, achievements or financial position could materially differ from expectations. Persons viewing this presentation should not place undue reliance on forward looking statements. The Company undertakes no obligation to update any of the forward-looking statements contained in this presentation or any other forward-looking statements the Company may make. Past performance is not an indicator of future results and the results of the Group in this

presentation may not be indicative of, and are not an estimate, forecast or projection of the Group's future results.

The Company does not guarantee the accuracy or completeness of information in this presentation regarding companies (including, but not limited to, those in which SB Funds have invested) other than the Group which has been quoted from public and other sources.

Regarding Trademarks

Names of companies, products and services that appear in this presentation are trademarks or registered trademarks of their respective companies.

Important Notice – Trading of SBG Common Stock, Disclaimer Regarding Un-sponsored American Depository Receipts.

SBG encourages anyone interested in buying or selling its common stock to do so on the Tokyo Stock Exchange, which is where its common stock is listed and primarily trades. SBG's disclosures are not intended to facilitate trades in, and should not be relied on for decisions to trade, un-sponsored American Depository Receipts ("ADRs").

SBG has not and does not participate in, support, encourage, or otherwise consent to the creation of any un-sponsored ADR programs or the issuance or trading of any ADRs issued thereunder in respect of its common stock. SBG does not represent to any ADR holder, bank or depository institution, nor should any such person or entity form the belief, that (i) SBG has any reporting obligations within the meaning of the U.S. Securities Exchange Act of 1934 ("Exchange Act") or (ii) SBG's website will contain on an ongoing basis all information necessary for SBG to maintain an exemption from registering its common stock under the Exchange Act pursuant to Rule 12g3-2(b) thereunder.

To the maximum extent permitted by applicable law, SBG and the Group disclaim any responsibility or liability to ADR holders, banks, depository institutions, or any other entities or individuals in connection with any un-sponsored ADRs representing its common stock.

The above disclaimers apply with equal force to the securities of any of the Group which are or may in the future be the subject of un-sponsored ADR programs, such as SoftBank Corp. or Z Holdings Corporation.

Notice regarding Fund Information contained in this Presentation

This presentation is furnished to you for informational purposes and is not, and may not be relied on in any manner as, legal, tax, investment, accounting or other advice or as an offer to sell or a solicitation of an offer to buy limited partnership or comparable limited liability equity interests in any fund managed by a subsidiary of SBG, including SB Global Advisers Limited (“SBGA”), SB Investment Advisers (UK) Limited (“SBIA”), SBLA Advisers Corp. (“SBLA”) and any of their respective affiliates (collectively, the “SB Fund Managers” and each an “SB Fund Manager”) (such funds together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle collectively, the “SB Funds” and each an “SB Fund”). For the avoidance of doubt, the SB Funds include, among other funds, SoftBank Vision Fund L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund I” or “SVF1”), which are managed by SBIA and its affiliates, SoftBank Vision Fund II-2 L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “Vision Fund II” or “SVF2”), which are managed by SBGA and its affiliates, SBLA Latin America Fund LLC (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, the “SoftBank Latin America Fund” or “LatAm Fund”), which is managed by SBLA and its affiliates.

None of the SB Funds (including the Vision Fund I, Vision Fund II and SoftBank Latin America Fund), the SB Fund Managers any successor or future fund managed by a SB Fund Manager, SBG or their respective affiliates makes any representation or warranty, express or implied, as to the accuracy or completeness of the information contained herein and nothing contained herein should be relied upon as a promise or representation as to past or future performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation, or future performance of any successor or the future fund managed by a SB Fund Manager.

Information relating to the performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation has been included for background purposes only and should not be considered an indication of the future performance of the relevant SB Fund, any other entity referenced in this presentation or any future fund managed by an SB Fund Manager. References to any specific investments of an SB Fund, to the extent included therein, are presented to illustrate the relevant SB Fund Manager’s investment process and operating philosophy only and should not be construed as a recommendation of any particular investment or security. The investment performance of individual investments of an SB Fund may vary and the performance of the selected transactions is not necessarily indicative of the performance of all of the applicable prior investments. The specific investments identified and described in this presentation do not

represent all of the investments made by the relevant SB Fund Manager, and no assumption should be made that investments identified and discussed therein were or will be profitable.

The performance of an SB Fund in this presentation is based on unrealized valuations of portfolio investments. Valuations of unrealized investments are based on assumptions and factors (including, for example, as of the date of the valuation, average multiples of comparable companies, and other considerations) that the relevant SB Fund Manager believes are reasonable under the circumstances relating to each particular investment. However, there can be no assurance that unrealized investments will be realized at the valuations indicated in this presentation or used to calculate the returns contained therein, and transaction costs connected with such realizations remain unknown and, therefore, are not factored into such calculations. Estimates of unrealized value are subject to numerous variables that change over time. The actual realized returns on the relevant SB Fund's unrealized investments will depend on, among other factors, future operating results, the value of the assets and market conditions at the time of disposition, any related transaction costs and the timing and manner of sale, all of which may differ from the assumptions and circumstances on which the relevant SB Fund Manager's valuations are based.

Past performance is not necessarily indicative of future results. The performance of an SB Fund or any future fund managed by an SB Fund Manager may be materially lower than the performance information presented in this presentation. There can be no assurance that each SB Fund or any future fund managed by the relevant SB Fund Manager will achieve comparable results as those presented therein.

Third-party logos and vendor information included in this presentation are provided for illustrative purposes only. Inclusion of such logos does not imply affiliation with or endorsement by such firms or businesses. There is no guarantee that an SB Fund Manager, an SB Fund's portfolio companies, any future portfolio companies of a future fund managed by an SB Fund Manager or SBG will work with any of the firms or businesses whose logos are included in this presentation in the future.

SBGA, SBIA and SBLA manage separate and independent operations and processes from each other and those of SBG in the management of Vision Fund II, Vision Fund I and Latam Fund, respectively. Any SB Funds managed by SBGA, SBIA or SBLA are solely managed by SBGA, SBIA or SBLA respectively.

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものでもありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績の保証を意味するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SB ファンド（下記で別途定義）並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」

(https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依存してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測又は予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ—SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引所法（以下「証券取引所法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引所法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又は SB Global Advisers Limited（以下「SBGA」）、SB Investment Advisers (UK) Limited（以下「SBIA」）、SBLA Advisers Corp.（以下「SBLA」）及びそれらの関係会社を含む SBG の子会社（以下併せて「SB ファンド運用会社」）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」）のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように

依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、他のファンド同様、それぞれ SBIA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、リーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」または「SVF1」）と、SBGA とその関係会社によって運用されている SoftBank Vision Fund II-2 L.P.（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、リーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」または「SVF2」）を含み、また、SBLA とその関係会社によって運用されている SBLA Latin America Fund LLC（文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、リーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」または「LatAm Fund」）を含みます。

SB ファンド（ビジョン・ファンド1 及びビジョン・ファンド2 並びにラテンアメリカ・ファンドを含む）、SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるにもかかわらず表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。

SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SB ファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確

定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又は SBG が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBGA、SBIA 及び SBLA は、ビジョン・ファンド 2、ビジョン・ファンド 1 及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互に SBG からそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA、SBIA 又は SBLA によって運用される SB ファンドは、それぞれ SBGA 単独、SBIA 単独又は SBLA 単独で運用されています。